

北海道芸術文化

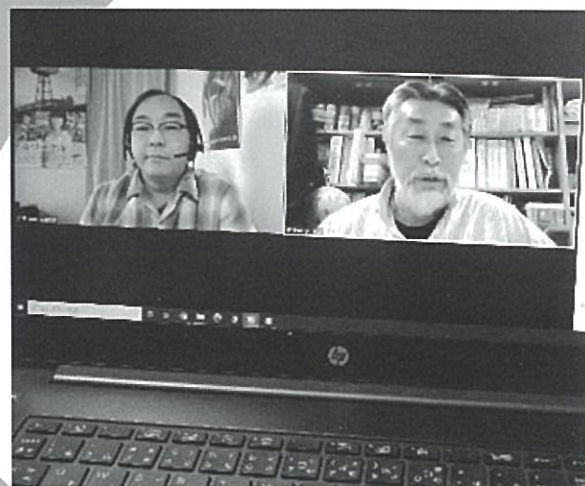
No.67



ISODA Kenichi



MIN Jinkung



KATAGIRI Shigetaka

HATA Yukio



URUSHI Takahiro

北海道文団協が創立した翌1959年から続いている「北海道文化集会」。ウィルス感染対策により、今年度は初めて無観客とし、パネリスト2名もリモート参加で開催にこぎつけました。集会の様子はWebで配信するなど、62回目で初めて経験する運営手法となりました。詳しくは2ページをご覧ください。

リモート開催

Web配信

北海道文化集會

第62回

11月23日に開催した第62回北海道文化集會は、新型コロナウイルスの感染防止のため、初めて観客を入れずに実施。釧路と士別からのパネリストはリモート参加とし、収録した映像をYouTubeチャンネルで配信することで、コロナ禍においても発信し続ける文化集會の役割を果たしました。

リモート文化集會

今回は「再生 Rebirth—未知の社会観に向き合う—芸術文化環境の再生が始まった」がテーマ。道の文化団体が抱える、会員の高齢化、会員数の減少、役員のなり手不足などの構造的な問題に加え、新型コロナウイルスによる各種事業の自粛など共通する課題に対し、活発な意見交換が行われました。

まず関さんからは「コロナ禍による全道の文化活動への影響」、さらには漆さんから「アートを介した各地での子供とのイベントプログラム」について事例発表がありました。それに対して各パネリストからは様々な意見が出されるところに、各分野で実践してきた経験に基づき、貴重なアイデアや地域ごとの特色ある取り組みなどが紹介されました。

釧路の片桐さんからは「いかに上を向いて活動させるか」や士別の漢さんからは「画一的でない、イベントに合ったガイドラインづくり」など、興味深いキーワードが。行政と民間の立場から幅広く北海道の文化振興に関わってきた磯田さんからは、すべての道民が持つ「文化権」のうえに多様な地域文化を創造していく考え方が示されました。

アートステージ

今回のアートステージは、音楽とダンスのセッション「GENK I is BEST」と題した、札幌在住のサックス奏者とダンサーによるコラボレーションステージです。文化集會と同じくYouTubeで鑑賞することができますので、ぜひお楽しみください。

アートステージ出演者

- 小野 健悟 (サックス)
- 高橋 学 (ダンス)
- 神田 広典 "
- SHOKO "



コーディネーター 宏瀬 賢二、満藤 弘 (ダンススタジオマインド 舞人)

北海道文団協ch
39live.jp/bdk

▶ チャンネル登録

ここから見てね。

北海道文化団体協議会賞の各賞が決定

「北海道における芸術文化の高揚に尽くされ、業績を上げた個人または団体」を対象に顕彰する北海道文化団体協議会賞が決定。
令和2年度は、芸術賞1個人、道文団協賞1個人、道文団協奨励賞1個人、2団体に贈られました。

【第15回奨励賞】



音更町文化協会
団体／文化活動
(代表 岡田哲男)



久野 孝鳥
個人／民謡

鶴吟会
団体／詩吟・吟舞
(代表 松井治吉)

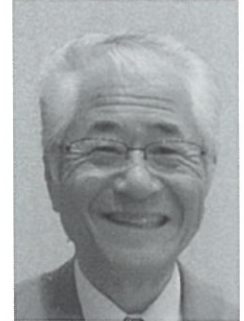


【第50回道文団協賞】



甲谷 滋子
個人／文化活動
江別市

【第27回芸術賞】



岡崎 守
個人／川柳
札幌市

受賞者から喜びの声

芸術賞

岡崎 守

第27回北海道文化団体協議会芸術賞を頂きまして、身に余る光栄と心より感謝を申し上げます。

30歳で川柳を始めて50年を迎えました。好きだから続けてこられたと思っておりますが、川柳と川柳人のお陰だと感謝いたしております。人間の結び付きの輪と和から作品が生み出され、人生の軌跡が積み上げられてきました。そして、僕の人生詩となって刻まれ、人間形成の大きな力となりました。

文団協の一員として参加させて頂き、あらゆるジャンルの方々との交流を得ながら、心の眼が開いたのを実感しております。

70歳からは、一日一句「こころの日記」として出版し、80歳までの10冊を目指しております。それが生きる目的となり、川柳と文化への恩返しではないのかと考えております。

この度の受賞を糧として、北海道の文化の発展に尽力していきたいと思っております。受賞へのお礼の言葉といたします。

道文団協賞

甲谷 滋子

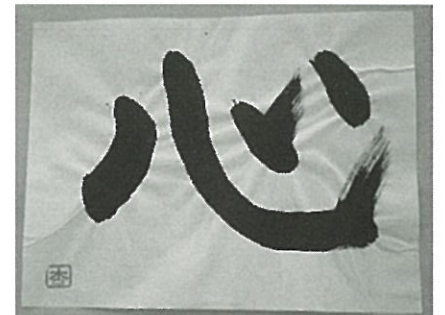
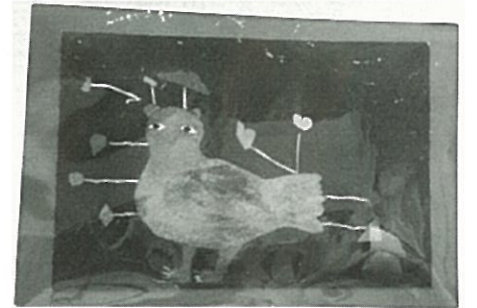
この度、第50回北海道文化団体協議会賞という身に余る賞を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

昭和52年に江別市文化協会のコーラスの一員として会員になり、縁あって洋舞団体の発表の場や市民ミュージカルの立ち上げに携わり、それぞれ舞台監督や代表として35年が過ぎました。その間、たくさんの方との出会いがあり、大変有意義な経験をさせていただきました。現在はNPO法人江別市文化協会の理事長として重責を担っております。

江別市の市民憲章に「教養を深め文化のかがり高いまちをつくりましょう」の一文があり、市民全体に文化に対する意識が染み込んでいます。そんな中、新型コロナウイルスの発生により市民文化祭の開催も危ぶまれましたが、「2020コロナに負けない文化祭」をテーマに、舞台、文芸、生活部門の発表を行いました。もちろん各部門においては、万全のウイルス対策を施し無事に終えることができました。これも江別市教育委員会、各実行委員会の個人々々の努力の賜であり、コロナ対策の実践として次に伝えていかなければなりません。

これからも微力ではありますが、芸術・文化の伝承と発展のため務めて参る所存であります。

こどもアール・ブリュット 北海道 みらい作品展



2回目を迎えた「こどもアール・ブリュット北海道みらい作品展」は、8月14日～16日、札幌文化芸術交流センターS CARTSに会場を移して開催。人の流れが絶えない中心部の施設での展示となり、多くの人たちに足を運んでいただきました。

この作品展は、障がい児も健常児も区分を設けず、同じ会場と一緒に展示するもの。今回は前回は74点上回る322点の作品が全道の小中学校、特別支援学校・学級から寄せられました。

いずれの作品も子供たち一人ひとりの内面から湧き上がる個性と可能性を秘めた力作ぞろい。まさに、Art（芸術）、Brut（生粋、素材のままである様子）の言葉どおり、子供たちが自発的に生み出す絵画や造形からのメッセージは、新型コロナウイルスによる閉塞感の中で、一筋の陽光となって私達を鼓舞してくれるようです。

令和3年は、8月20日（金）～22日（日）に、札幌文化芸術交流センターS CARTSで開催します。多くの皆さまの温かい眼差しで、この作品展を育ててくださいますことを願っています。

「アール・ブリュット」とは

「生の芸術」という意味のフランス語。Artは芸術、Brutは加工されていない生のままである様子をいい、正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した絵画や造形などを指す、新しい芸術分野です。

障がいを個性と捉え、障がい児も健常児もみんな違うからこそ、みんないいんだという考え方が基礎になっています。これは国連で採択されたインクルーシブ教育「人間の多様性を尊重し、みんなと一緒に学ぶ」につながる取り組みであり、小中学生を対象とした作品展は全国でも例がありません。

全道シルバー作品展

第31回

第31回全道シルバー作品展には、絵画24点、書10点、写真30点、工芸22点、短詩型80点の、合計166作品の出展があり、秀逸な出来ばえで来場者を魅了しました。入賞者をご紹介します。

会期 令和2年10月1日(木)～5日(月)
会場 道民活動センター(かでる2・7) 展示ホール

北海道知事賞

細矢 博 69歳(絵画)
柴田 俊子 80歳(書)
高橋 堅 69歳(写真)
末田 圭子 82歳(工芸)
稲澤 壽美子 81歳(短歌)

北海道社会福祉協議会会長賞

富永 彰子 63歳(絵画)
玉村 幸子 79歳(書)
吉村 剛 72歳(写真)
葛西 り子 72歳(工芸)
大上 加代 80歳(俳句)

北海道文化団体協議会会長賞

小松 康宏 76歳(絵画)
水野 眞吉 94歳(書)
田澤 康史 73歳(写真)
中島 雅昭 69歳(工芸)
佐藤 富子 81歳(川柳)

札幌市長賞(特別賞)

上田 猛雄 72歳(工芸)
原 秀子 73歳(写真)

かでる賞(最高年齢者特別賞)

木田 弘 97歳(短歌)
森田 澄子 92歳(俳句)



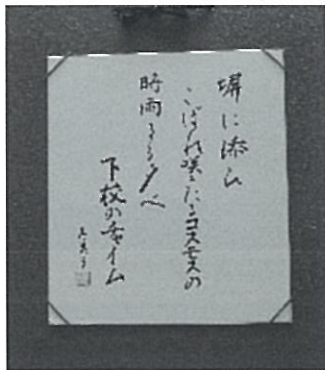
末田 圭子(北海道知事賞・工芸)
「クレイアートアレンジメント」

評/クレイアートは多様な表現ができる素材として、多くの作品があります。その中で、10種類の花々を巧みな技法で表現されています。こんもりとまとまっていて、花たちが楽しい語らいをしているようです。見る人たちをやさしく包んでくれる作品です。



細矢 博(北海道知事賞・絵画)
「呼人に咲く水芭蕉」

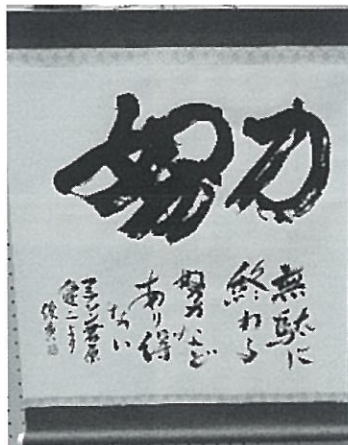
評/自然の中の一部を切り取った構図が面白い。決して華々しさはないが、誠実な表現に共感できる。



稲澤 壽美子(北海道知事賞・短歌)

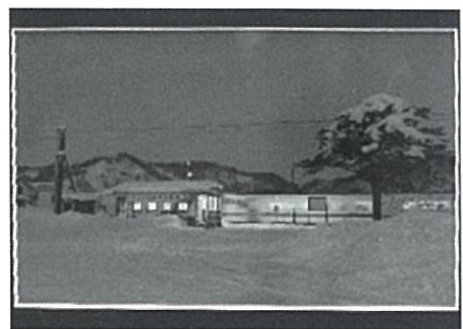
「塀に沿ひ
こぼれ咲きたるコスモスの
時雨るる夕べ
下校のチャイム」

評/学校の塀に沿ってコスモスの花が一面に咲きこぼれている。ふと見ると雨が静かに降ってきた。そんな夕べ、下校を促すチャイムが流れてくる。秋の穏やかな時間の流れが鮮やかに捉えられている印象深い佳い歌である。



柴田 俊子(北海道知事賞・書)

「調和体書」
評/詩の意味する所に正面から向かい、若さと気迫あふれた取り組みは、調和体書の魅力を十分に発揮した作となった。



高橋 堅(北海道知事賞・写真)
「北の無人駅」

評/札沼線の一部が廃止となって日も浅いですが、その中であつた本中小屋駅が写されたものですね。今となっては見る事ができない光景に強く惹かれるものを感じました。特別なものがあるわけではない光景が時間を経て写真の中に輝いている。駅や列車に人は写っていませんが、人の残像を感じます。

令和2年度

道民芸術祭



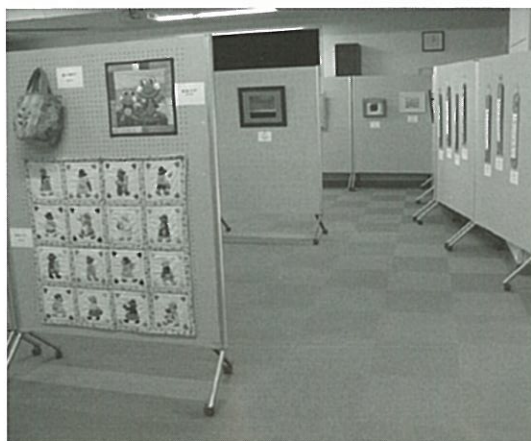
石狩管内文化団体協議会



釧路地方文化団体連絡協議会



後志管内文化団体連絡協議会



十勝文化団体協議会



胆振文化団体協議会

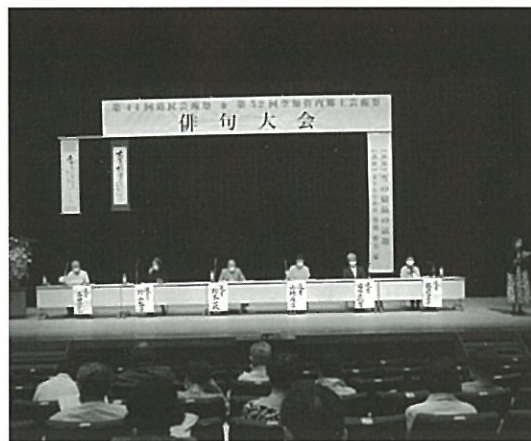


宗谷管内文化団体連絡協議会



根室管内文化協会連絡協議会

道民芸術祭は、道内文化団体の技術向上と交流の促進、そして多くの道民に鑑賞の機会を提供することを目的に開催しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、14管内のうち、実施できたのは8管内となりましたが、それぞれに特色のある発表が行われました。



空知文化団体連絡協議会

頑張っています



釧路地方文化団体連絡協議会

会長 貝塚 勝一

釧路地方文化団体連絡協議会が誕生してから本年度で満51周年を迎えました。昭和46年度からは、北海道文化団体協議会への加盟により、各ジャンル毎に道民芸術祭の「釧路地方祭」を管内各文化協会（協議会）の持ち回りで開催するなど、各種事業を推進してまいりました。

当協議会が常日頃から地域の独自性を発揮した芸術文化活動を進めることが出来たのは、加盟団体のそれぞれの事業はもとより、毎年開催される文化・芸術祭等々、市町村連携による多岐にわたる文化振興への理解と熱意によるものです。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、これまで経験のない状況の中で事業の検討となりましたが、

最終的には感染防止対策に万全を期した上で「郷土芸能祭」（釧路市）、「総合美術展」（弟子屈町）、「釧路地方文化団体役員等研修会」（釧路町）の3事業を開催することができました。そこには長年に亘って紡いできた「道民芸術祭の灯」を消すことができないと云う熱い思いがあったことを決して忘れることはできません。

特に「役員等研修会」は当協議会の独自の研修事業として各管内でも類を見ない広域的視点に立った活動として大変意義深く、そして評価の高い事業であります。今回は保健師を講師に「新型コロナウイルスと文化活動」をテーマに講演を行うなど今後の活動に示唆をもたらす内容をもって進めたところです。

近年、地域力や文化力という言葉をよく耳にします。それはまさに地域文化の振興を応援する期待の声でもあり、それぞれの大切な人と文化とが会う中で、地域で生まれた特色ある文化活動の輪を更に大きく広げて行かなければならないことを痛感しております。



石狩管内文化団体協議会

会長 富木 須磨子

石狩管内文化団体協議会は、石狩管内5市1町1村で構成されています。会長職及び事務局は2年の輪番制で、現在、石狩市文化協会が担当しています。当協議会は、毎年、道民芸術祭事業を中心とした事業を展開しています。例年ですと、石狩管内文芸交流大会、石狩管内郷土芸術祭（舞台部門・展示部門）を開催し、石狩管内5市1町1村の文化芸術活動発表の場を提供してきました。しかしながら、昨年1月以降、日本国内における新型コロナウイルス感染症の流行により、石狩管内はもとより、北海道さらには日本国内での文化芸術活動に大きな影響が及びました。令和2年度の当協議会事業は、石狩市における石狩管内郷土芸術祭展示部門のみの開催にとどまっているところです。しかしながら、唯一開催となった石狩管内郷土芸術祭展示部門には、百点を超える作品が展示され、厳しい環境下での活動成果が披露されました。「ポストコロナ」は今後の人類最大のテーマといえましょう。私たち文化芸術活動は、その内容を変えつつも、現下の状況でできる行動を模索しながら、文化芸術振興を図って行きたいと思っております。

道内他団体の皆様も、まずはご健勝でおられること、そして、これまでの活動を継続発展させることを、心からお祈りいたします。

- ▽4月15日(木)
北海道文団協「役員会」
全道14管内会長会議
(札幌市教育文化会館研修室402)
- ▽4月～3月
令和3年度道民芸術祭
(全道14管内各会場)
- ▽5月11日(火)
北海道文団協「総会」
(札幌市資料館研修室)
- ▽6月17日(木)
東北・北海道芸術文化団体協議会総会
(岩手県)
- ▽8月20日(金)～22日(日)
こどもアールブリュット北海道みらい作品展
(札幌芸術文化交流センターSCARTS)
- ▽9月26日(日)
第59回道北文化集会(和寒町)
- ▽10月22日(金)～26日(火)
第32回全道シルバー作品展
(札幌市／かでの2・7)
- ▽10月30日(土)～11月21日(日)
第36回国民文化祭・わかやま21
(和歌山県)
- ▽10月30日(土)～11月2日(火)
第33回全国健康福祉祭ぎふ大会
ねんりんピック岐阜21美術展
(岐阜県)
- ▽11月23日(火)
第63回北海道文化集会
(札幌市資料館)

文化交流で祝おう

黒龍江省との友好提携35周年

北海道と中国黒龍江省が友好提携の調印を行ったのが、1986年6月13日。今年は提携35周年を迎えます。

北海道文団協と黒龍江省との交流は、友好提携調印の年から事務局の相互訪問による協議を経て、1989年に京劇の交流団を迎え札幌、苫小牧で公演したのが、実質的な交流の開始となりました。この間、黒龍江省からは伝統舞台芸術、歌、器楽、雑技、中国画



平成元年に來道した黒龍江省京劇院による「三岔口」

など、北海道からは洋舞、洋楽、邦舞、邦楽、吟剣詩舞、現代美術、陶芸などの分野における交流を通じて、双方の454名の芸術家が相互訪問を行いました。

昨年は新型コロナウイルスの影響によつて交流が途切れましたが、黒龍江省との芸術文化交流は北海道文団協の主要事業の一つとして、今後とも継続、発展させていかなければなりません。

今年度、友好締結35周年の記念事業として、今年の秋以降に芸術交流団の受け入れや親善使節団の派遣が計画されています。北海道文団協としては、北海道と連携する形で芸術交流団の北海道公演への参画を考慮しており、全道的な盛り上がりで35周年を祝うためにも、ご協力をお願いいたします。

〇〇。あとがき。〇〇

札幌文団協の話をご紹介します。

2月5日に開催したフェスティバル舞台部門は、コロナの影響で半年遅れの開催となりました。感染防止の対策がたいへん。出演者は前日のリハーサルと本番に全員が検温の確認表を提出。

観客は検温、チケットは半券に連絡先記入、自分でもぎり、プログラムは手渡しされず、お花などのプレゼント禁止、さらには会話自粛に分散退場。規制ばかりの公演となりましたが、久々のステージとあって、出演者にも観客にもたくさん笑顔が。そして事務局は発表の機会を提供できる喜びをかみしめました。

北海道芸術文化(道文団協広報)

第 67 号

2021年3月25日発行

北海道文化団体協議会
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目
札幌市教育文化会館内
電話 (011) 271-5036
FAX (011) 271-5046
E-mail : bundankyo@msj.biglobe.ne.jp
ホームページ : http://doubun.wp.xdomain.jp/